

入院診療計画書









氏名 様

傷病：骨軟部肉腫

症状：

治療：イホマイド/ダカルバジン/アドリアシン療法()コース目

西・東病棟 階 A・B 号室

| | 入院当日(治療前) | 治療の期間 | 退院日(治療終了後) |
|--------|---|--|---|
| | 月 日 | 月 日～ 月 日(日間) | 月 日 |
| 目標 | 治療の経過が分かる | 予定どおり治療が終了する | 副作用への対処法を理解し実行できる |
| 説明・指導 | 入院生活について説明します。 腎機能検査のため、尿をためる方法について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。薬剤師から、薬の説明があります。 | 点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えて下さい。 こまめに水分補給をしてください。 | 退院指導を行います(生活指導や次回外来再診日の連絡) |
| 治療処置点滴 | 身長・体重を測定します。  | スケジュール(1～3日目) | 抗がん剤の主な副作用 発症時期による症状と対処方法について、以下のものがあげられます。 【投与から1～2日後】 便秘症 → 便秘薬(緩下剤)の内服 吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状 → 吐き気止めの注射 出血性膀胱炎 → ウロミテキサンの注射 【投与から数日間経過してから】 口内炎 → うがいや抗炎症薬の軟膏を塗布 貧血 → 輸血(頻度は稀です) 血小板減少 → 血小板輸血(頻度は稀です) 出血性膀胱炎 → ウロミテキサンの注射 【投与から1～2週間経過してから】 白血球減少 → G-CSF製剤(白血球を増やす薬)を注射 脱毛 → かつらやバンダナなどを使用 味覚の変化 → 味付けの工夫、うがいの励行 |
| | | スケジュール(4～5日目) | |
| 内服 | 現在飲んでいる内服薬の確認をします。 内服薬は基本的に継続内服とします。 | 1日目はイメンド125mg(吐き気止め)と膀胱炎対策としてダイアモックス錠(利尿剤)を飲みます。 2～5日目はイメンド80mgとダイアモックス錠を飲みます。 6～7日目はダイアモックス錠を飲みます。 現在飲んでいる内服薬は基本的に継続内服とします。  | 症状に応じて内服薬が処方される可能性があります(吐き気止めや便秘薬など)。  |
| 検査 | 化学療法に必要な検査を行います。(血液検査、尿検査)  | 24時間尿をためていただき、尿量を測定して腎機能検査を行います。体調に応じて血液検査を行います。  | 体調に応じて血液検査をすることがあります。  |
| 食事 | 基礎疾患(糖尿病・高血圧など)に応じて、治療食が出ます。 | 食事の制限は特にありません。水分を取るように心掛けて下さい。吐き気のために食べられないときには、食事の変更ができますので相談ください。症状にあわせて食事内容を変更することがあります。 | |
| 生活・行動 | 特に行動制限はありません。 | 特に行動制限はありません。治療後は、白血球数が減少すると抵抗力が弱くなるため、人混みは避け、うがい・手洗いをしっかりと行い感染に注意してください。血液データに応じて食事や行動の制限がある場合があります。 | |
| 清潔 | シャワー浴、または入浴ができます。  | | |
| その他 | 熱が出た場合や検査データに異常のある場合は、化学療法を延期することもあります。 | 他に気になる症状がありましたら、申し出てください。  | この治療を数回繰り返します。治療の内容は変更になることがあります。 |

特別な栄養管理の必要性 有・無

年 月 日 医師名

在宅復帰支援計画 無・有()

担当以外の担当者

総合的な機能評価 無・有()

在宅復帰支援担当者

注1) 病名等は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにたがって変わることがあります。

本人・家族署名

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものです。

岩手医科大学附属病院 整形外科

注) 原本患者保管・自署以外のサインは印が必要です。